

# 海外食料需給レポート

## (2020 年 7 月)

令和 2 年 7 月 30 日

**農林水産省**

# 海外食料需給レポートについて

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

## 5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

### (2) 農林水産関係機関の情報 (ALIC の情報サイト)：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

### (3) その他海外の機関 (英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関 (FAO)：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会 (IGC)：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構 (OECD) (農業分野)：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム (AMIS)：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省 (USDA)：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社 (CONAB)：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省 (AAFC)：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局 (ABARES)：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

# 目 次

## 概要編

|     |                              |   |
|-----|------------------------------|---|
| I   | 2020 年 7 月の主な動き              | 1 |
| II  | 2020 年 7 月の穀物等の国際価格の動向       | 2 |
| III | 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント     | 2 |
| IV  | 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント   | 2 |
| V   | 今月の注目情報 米国のとうもろこし・大豆の生産と需要動向 | 3 |

### （資料）

|   |                        |   |
|---|------------------------|---|
| 1 | 穀物等の国際価格の動向            | 6 |
| 2 | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移    | 7 |
| 3 | 令和 2 年 1 月以降の食品小売価格の動向 | 8 |

## 品目別需給編

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| I  | 穀物     |     |
| 1  | 小麦     | 1   |
| 2  | とうもろこし | 8   |
| 3  | コメ     | 1 2 |
| II | 油糧種子   |     |
|    | 大豆     | 1 6 |

### 【利用上の注意】

## (概要編)

## I 2020 年 7 月の主な動き

### 1 ブラジルの冬とうもろこしの収穫・輸出

大豆の収穫後の圃場に作付けされた冬とうもろこしの収穫が開始された。主に中国向けの輸出増加のため、大豆の作付面積の増加に伴い、収穫後に裏作として栽培される冬とうもろこしの作付面積も増加してきた。ブラジル食料供給公社（CONAB）によれば、冬とうもろこしの作付面積は全体の約 8 割を占めている。生産量は、冬とうもろこしと夏とうもろこしの合計で 1 億トン程度となる見込み。

主産地のマトグロッソ州では天候に恵まれ、7 月 24 日時点で収穫率は 87%と、概ね順調に収穫が行われている。順次、我が国や東南アジア諸国向け等に輸出されるとみられる。（P18 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）

写真 ブラジルの冬とうもろこしの収穫  
（マトグロッソ州 7 月 4 日撮影）



### 2 ロシア・ウクライナの輸出規制

ロシアは、4 月に小麦、とうもろこしを始めとする穀物の 4－6 月期の輸出枠 7 百万トンを設定し、4 月下旬に輸出枠が満了となった。また、ウクライナは 2019/20 年度（7－6 月）の輸出上限数量 2,020 万トンを設定し、実際の輸出量は 2,050 万トンに達した。

報道によれば、7 月に入り、ロシアは、2020/21 年度の新穀の収穫が開始され、1 億 2000 万トン以上の穀物の収穫が見込まれることから、今のところ輸出規制は行っていない。なお、ウクライナは、7 月 1 日付けで政府が穀物輸出業者と穀物輸出に関する覚書（MOU）を交わした。なお、具体的な輸出上限数量などの詳細は 8 月以降に決めるとしている。

### 3 東南アジア諸国のコメ輸出動向

3 月から 4 月にかけてコメの輸出規制を行っていたベトナム、カンボジアは 5 月時点で米の輸出規制を解除した。また、一時、コメの輸出を停止していたミャンマーは、5 月には中国向け等に 15 万トンの輸出枠を設定した。6 月以降も輸出枠を継続し、フィリピンやマレーシア等向けに輸出を行っていると思われる。

7 月現在、コメの主要輸出国でコメの輸出を禁止している国はないとみられる。

一方、コメの国際価格については、タイは輸出規制は行わなかったが、降雨不足による乾季米の減産や雨季米への影響懸念もあり、タイの米の国際価格は高止まりしていた。7 月に入り、バーツ安に転じたことや 7 月の降雨による干ばつの懸念が減少したことに加え、ベトナムの新穀の供給開始等から前月と比べ下落したが、なお高水準で推移している。

## II 2020 年 7 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、6 月下旬、180 ドル/トン前後で推移。7 月中旬にドル高や低調な輸出検証高等から一時低下したものの、フランス、ロシアの生産予測の減少見込みや米国農務省需給報告で米国産の生産予測が市場予想を下回ったこと等から値を上げ、7 月下旬現在、190 ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、6 月下旬、130 ドル/トン台半ばで推移。米国の順調な生育進捗や新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要の落ち込み懸念の一方、原油価格の復調によるエタノール生産量の回復や 6 月末の米国農務省作付面積報告で作付面積が市場予想を大幅に下回ったこと等が下支えし、価格は小幅に上下し、7 月下旬現在、130 ドル/トン前後で推移。

コメは、6 月下旬、530 ドル/トン台半ばで推移。バーツ安に転じたことや 7 月のタイでの降雨により干ばつの懸念が減少したことに加え、ベトナムの新穀の供給開始等から下落したが、なお高水準となっており、7 月下旬現在、490 ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、6 月下旬、320 ドル/トン前後で推移。米国の順調な生育進捗等の一方、中国による米国産大豆の買付期待や原油価格の復調、6 月末の米国農務省作付面積報告で作付面積が市場予想を下回ったこと等の下支えされ、やや上昇し、7 月下旬現在、330 ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

## III 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 2,980 万トン下方修正され 27.3 億トン。消費量は、前年度より 470 万トン下方修正され 27.0 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を上回り 31.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月と比較して、コメで上方修正も、小麦、とうもろこしで下方修正されたことから、穀物全体で下方修正され 27.3 億トンの見込み。

消費量は、前月と比較して、コメで上方修正も、小麦、とうもろこしで下方修正されたことから、穀物全体で上方修正され 27.0 億トンの見込み。

貿易量は、とうもろこしで上方修正も、小麦、コメで下方修正され、4.5 億トンの見込み。

期末在庫量は、8.5 億トンと前月より下方修正されたが、期末在庫率は前年度を上回る。

(注：数値は 7 月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## IV 2020/21 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.0 億トン。消費量は前年度を上回り 6.0 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、18.1%となる見込み。

(注：数値は 7 月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

## V 今月の注目情報:米国のとうもろこし・大豆の生産と需要動向

2020/21年度の米国のとうもろこし、大豆の作付けは降雨過多で大幅に遅れた前年度と比べ順調に進展し、とうもろこしは7月には受粉期を迎えたとみられる。作付面積は前年度より増加し、とうもろこし、大豆とも増産が見込まれている。

一方、2020/21年度のとうもろこし需要については、原油価格の復調に加え、米国内のコロナウイルスの影響の緩和によるバイオエタノール向け需要の回復が見込まれ、大豆については国内需要の回復に加え、中国向け輸出が期待されている。

最近の状況をまとめた。

### 1 生産状況

#### (1) 作付面積調査結果

6月30日に米国農務省(USDA)が公表した作付面積調査によれば、米国のとうもろこしの作付面積は、降雨過多で作付けが影響を受けた前年度と比較して3%増の3,723万ヘクタールとなっており、大豆も10%増の3,392万ヘクタールとなっている。しかしながら、3月時点の作付意向調査と比較して、とうもろこしは5%減、大豆は微増にとどまった。

これを受けた7月の農産物需給報告(WASDE)等によれば、2020/21年度の米国のとうもろこしの生産量は、6月予測より下方修正されたものの、前年度より増加し、史上最高の2015/16年度に匹敵する3億8,100トン、大豆の生産量も前年度より増加し、史上最高の生産量となった2018/19年度の1億2,000万トンには及ばないが、1億1,300トンに回復するとみられている。

写真 受粉期を迎えるとうもろこし 概ね順調に生育  
(イリノイ州 7月7日撮影)

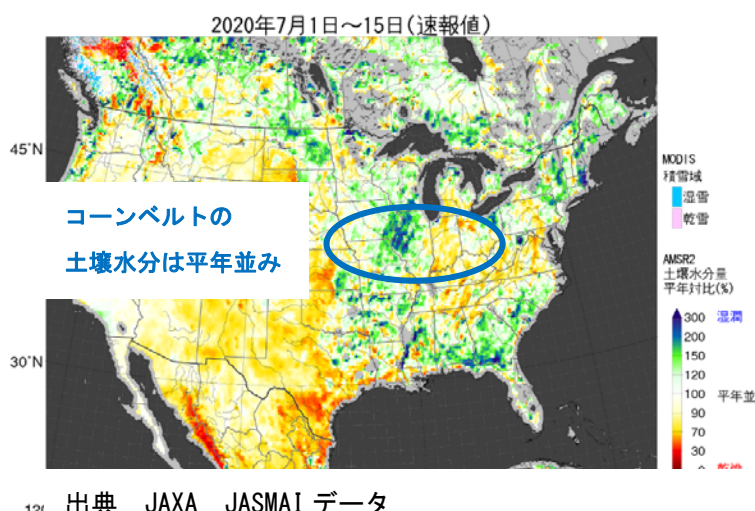


#### (2) 生育状況

降雨過多で作付けが大幅に遅れた前年度と比較して、2020/21年度の作付けは天候に恵まれ、過去5年平均を上回るペースで進展した。

7月20日付けのUSDAのCrop Progress では とうもろこしのシルキング率は59%、大豆の着莢率は25%と前年度及び過去5年平均より進展している。とうもろこしの単収の決定に大きな影響を与える受粉期の7月のコーンベルトの天候は、当初は乾燥予想もあったものの、7月前半の土壌水分も平年並み(右図参照)となっており、概ね良好に推移しているとみられる。

図1 米国の土壌水分データ



## 2 需要動向

### (1) 2019/20 年度

2020 年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための外出規制等からガソリンの需要が落ち込み、とうもろこしのバイオ燃料向け需要も減少した。また、米国内の食肉需要の減退のため、飼料用とうもろこし需要が下方修正された。

輸出については、とうもろこし、大豆とも 2018 年からの中国との通商摩擦に加え、南米の増産、輸出増による輸出競争の激化により苦戦している。

### (2) 2020/21 年度

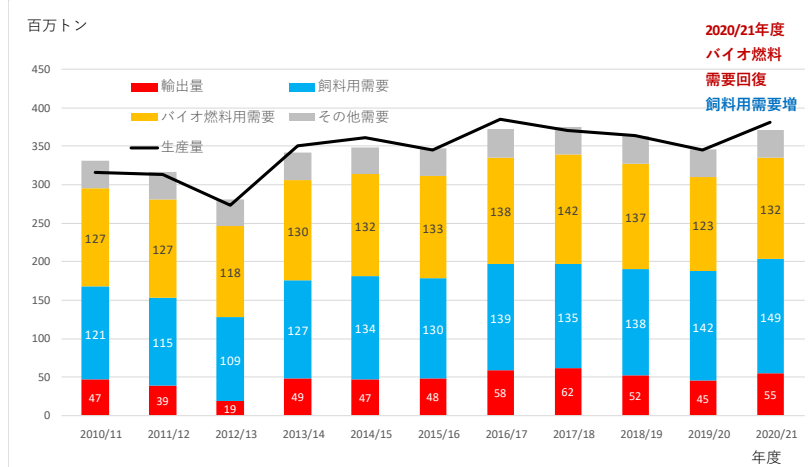
2020/21 年度については、新型コロナウイルス感染の影響の緩和により、バイオ燃料向け需要に加え、食肉需要の回復による飼料用とうもろこしや大豆粕需要の回復見通しから需要は増加するとみられている。

輸出については、2020 年 1 月の中国との通商協議の一次合意に加え、中国の新型コロナウイルスやアフリカ豚熱の影響からの回復による需要増から、米国からの買付が徐々に増加している。

とうもろこしについては、米国穀物協会の 7 月 16 日付けのプレスによれば、中国が 7 月 14 日には過去最大数量の買付を行ったとしている。

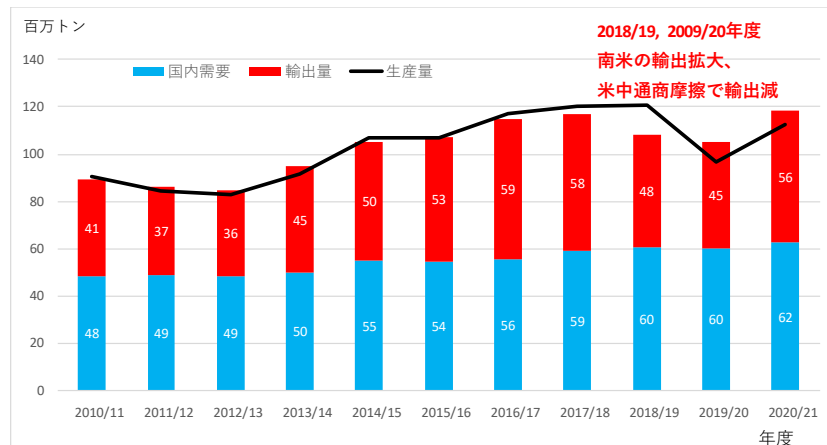
大豆についてもブラジルの在庫の減少により、徐々に米国産に切り替わるとみられている。

図2 米国のとうもろこし生産と需要の推移



出典 米国農務省「PS&D」(2020. 7)から農林水産省で加工

図3 米国の大豆生産と需要の推移



出典 米国農務省「PS&D」(2020. 7)から農林水産省で加工

### 3 我が国の輸入への影響

今のところ、米国のコーンベルトの天候も順調に推移しており、2020/21 年度のとうもろこし、大豆は前年度より増産が見込まれている。一方、ブラジルでは 2019/20 年度産の大豆が前年より増産となり、冬とうもろこしの収穫が順調に行われている。両国とも新型コロナウイルスの感染が続いているが、食料供給はエッセンシャル・サービスと位置づけられており、今のところ穀物輸出には大きな影響は発生していない。

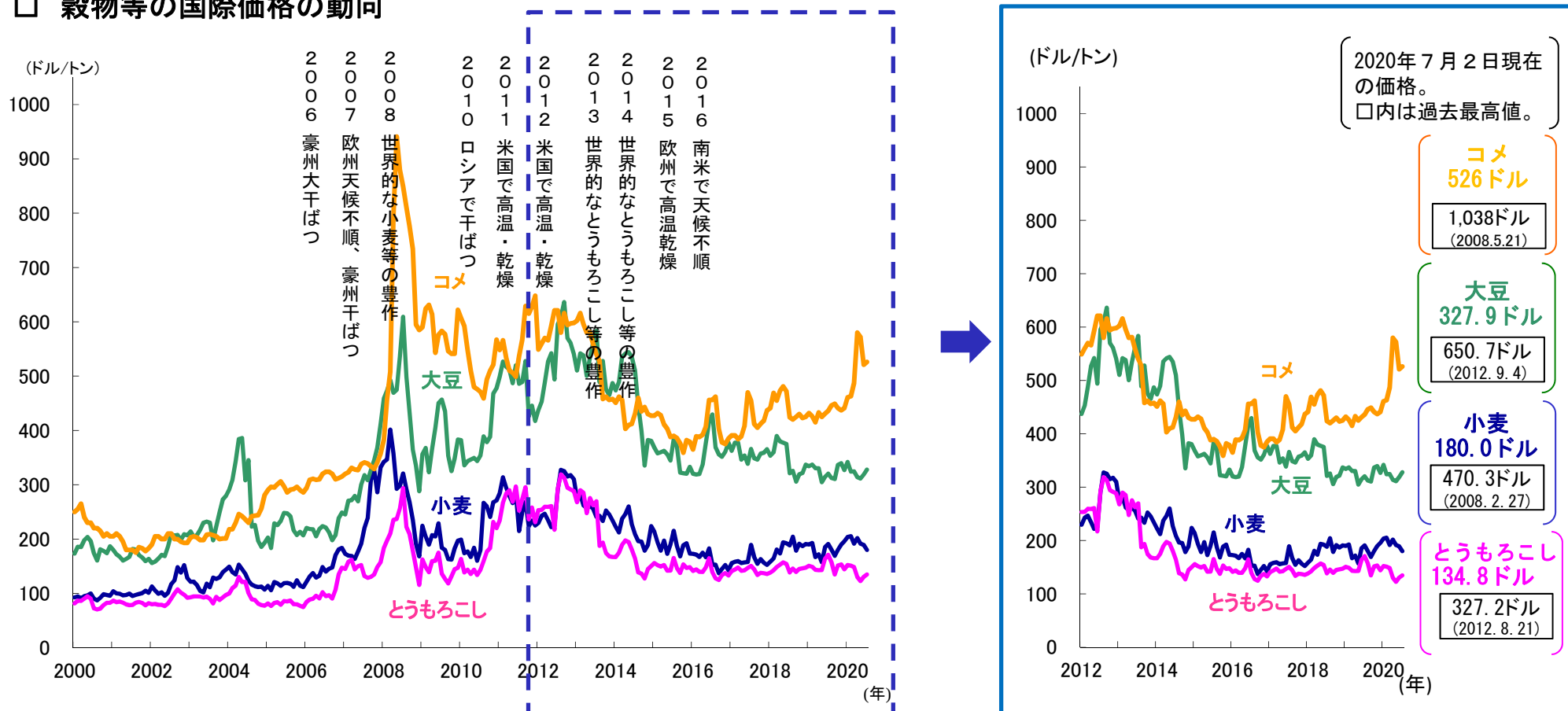
また、世界の穀物在庫については在庫率が 31%と高水準となっており、7 月現在、主要輸出国のうち、とうもろこしや大豆の輸出数量規制を行っている国は見当たらない。

こうしたことから、我が国のとうもろこし、大豆輸入については、今のところ概ね支障はないとみられる。

## 資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な小麦やとうもろこし、大豆の豊作等から穀物等価格は低下。  
2017年以降ほぼ横ばいで推移。コメは、2013年以降タイの在庫放出等から低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇した。4月末のベトナムの輸出枠の解除等で下落したものの、タイの降雨不足により依然として高止まり。
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により2008年以前を上回る水準で推移している。

### □ 穀物等の国際価格の動向



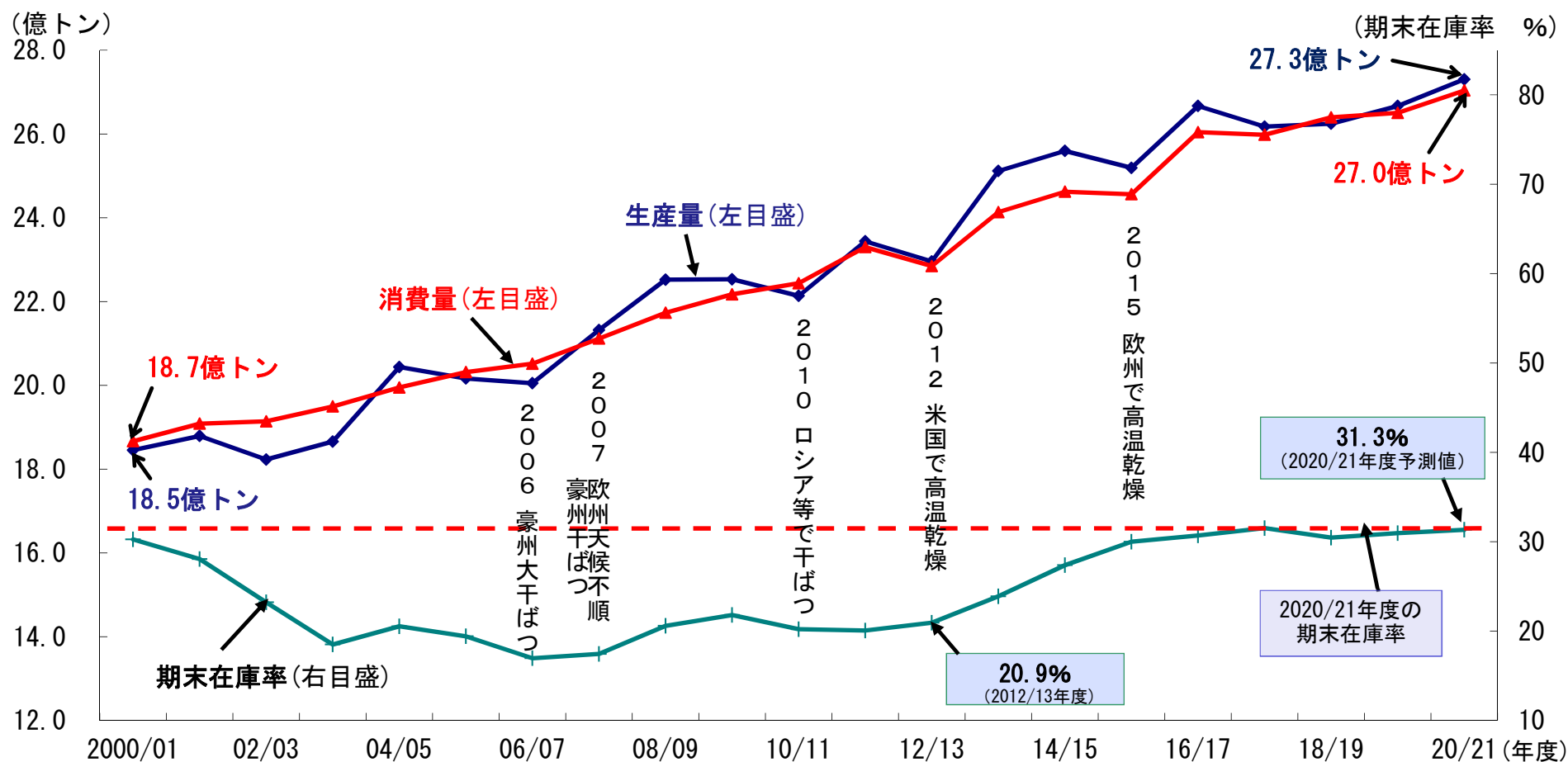
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、2020年7月3日（金）はシカゴ商品取引所休場のため、7月2日の価格を用いた。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.4倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ることから31.3%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(20.9%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2020)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

## 資料3 令和2年1月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

### 令和2年1月～令和2年6月の 食品小売価格の動向

| 品目              | 消費者物価指数(総務省) |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |                    |
|-----------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
|                 | H26          | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    |       |       |       |       |       |                    |
|                 | 平均           | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 生鮮食品を<br>除く総合   | 97.7         | 100.0 | 99.7  | 100.2 | 101.0 | 101.7       | 102.0 | 101.9 | 101.9 | 101.6 | 101.6 | 101.6 | 0.0%               |
| 食パン             | 98.5         | 100.0 | 101.1 | 100.9 | 101.4 | 102.3       | 102.2 | 101.8 | 101.2 | 101.6 | 101.2 | 101.5 | -0.8%              |
| 即席めん            | 94.2         | 100.0 | 100.0 | 99.5  | 99.0  | 102.4       | 103.6 | 104.9 | 104.4 | 105.0 | 103.7 | 104.5 | 1.0%               |
| 豆腐              | 98.0         | 100.0 | 100.0 | 100.5 | 100.7 | 101.0       | 101.0 | 101.5 | 101.4 | 101.5 | 101.7 | 101.7 | 0.4%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8        | 100.0 | 97.8  | 94.5  | 93.3  | 92.8        | 91.8  | 91.9  | 92.1  | 92.6  | 92.9  | 91.8  | -0.6%              |
| みそ              | 100.6        | 100.0 | 99.4  | 99.1  | 99.6  | 101.4       | 101.9 | 101.7 | 102.4 | 102.5 | 102.8 | 102.7 | 1.1%               |
| チーズ             | 97.9         | 100.0 | 99.3  | 98.8  | 102.6 | 102.9       | 101.3 | 102.3 | 101.2 | 102.5 | 99.9  | 101.3 | 0.8%               |
| バター             | 95.0         | 100.0 | 101.5 | 101.7 | 102.0 | 102.3       | 102.5 | 102.3 | 102.2 | 102.1 | 102.2 | 102.1 | -0.3%              |
| マヨネーズ           | 103.5        | 100.0 | 98.1  | 96.7  | 95.3  | 95.1        | 95.7  | 93.9  | 93.9  | 95.2  | 95.3  | 94.8  | -1.2%              |

資料:総務省消費者物価指数

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

### 【参考】令和2年2月～令和2年7月の 食品小売価格の動向

| 食品価格動向調査(農林水産省) |       |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |       |              |                    |  |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|--|
|                 | H26   | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    |       |       |       |       |       |       |              |                    |  |
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |  |
| 食パン             | 97.7  | 100.0 | 100.9 | 99.5  | 99.8  | 103.2       | 103.2 | 102.3 | 101.6 | 102.3 | 103.2 | 101.9 | 101.6 | -0.2%        | -1.1%              |  |
| 即席めん            | 93.3  | 100.0 | 99.8  | 99.6  | 99.5  | 105.3       | 108.5 | 108.5 | 107.9 | 108.5 | 107.9 | 107.9 | 107.9 | 0.0%         | 0.0%               |  |
| 豆腐              | 100.3 | 100.0 | 96.9  | 95.6  | 95.0  | 95.7        | 95.5  | 95.1  | 95.1  | 95.5  | 97.1  | 95.5  | 94.3  | -1.3%        | -2.1%              |  |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8 | 100.0 | 96.3  | 94.6  | 94.6  | 100.1       | 98.3  | 97.1  | 96.8  | 97.4  | 97.1  | 97.1  | 96.2  | -0.9%        | -5.1%              |  |
| みそ              | 99.0  | 100.0 | 99.8  | 101.6 | 106.8 | 111.0       | 110.8 | 111.7 | 110.6 | 110.8 | 112.9 | 110.6 | 110.1 | -0.4%        | -0.2%              |  |
| チーズ             | 97.1  | 100.0 | 100.0 | 99.7  | 103.2 | 105.7       | 105.3 | 106.9 | 105.3 | 105.3 | 100.6 | 102.7 | 104.8 | 2.0%         | -0.9%              |  |
| バター             | 94.6  | 100.0 | 101.3 | 102.0 | 102.3 | 102.7       | 103.0 | 103.0 | 103.0 | 103.4 | 103.7 | 103.4 | 103.2 | -0.2%        | 0.5%               |  |
| マヨネーズ           | 101.6 | 100.0 | 99.2  | 98.4  | 97.2  | 102.4       | 101.4 | 101.0 | 100.0 | 100.4 | 100.0 | 99.3  | 98.3  | -1.0%        | -3.7%              |  |

資料:農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

注2:調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。

注3:調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4:令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県での調査を中止し、5月の調査は東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県での調査を中止し、6月の調査は全国で再開したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。